

平成 27 年度 糸魚川市 技術家庭科部 活動報告

部長 高橋 悦子

1 研究主題

衣服・衣生活に関する指導の工夫や授業改善と小・中の連携

2 研究の概要

衣生活に関する授業公開を通して、部員自身の授業実践との比較や家庭科における小・中連携のあり方を協議し、授業改善を図る。

3 研究の実際

(1) 公開授業（中学校家庭科）

○単元名「日常着の活用～自分らしく目的に合わせた着方」（1年）

○授業日 平成 27 年 11 月 11 日（水） 於：糸魚川市立糸魚川中学校 1 年 6 組教室

○授業者 糸魚川中学校教諭（家庭科部推進委員）

① 題材について

中学校学習指導要領の内容に、衣服の「社会生活とのかかわりで目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫」がある。中学生は、他人と自分との違いを意識しながら自分を見つめ成長していく時期である。自分らしい着方を工夫し、TPO に応じて着用する生徒を育てるため、この題材を設定した。

② 本時のねらい

TPO について理解し、ふさわしい着方を考える。

テーマに合ったコーディネートを考え、表現する。

③ 授業の概要

まず、冠婚葬祭にふさわしい衣服について前時の復習をした後、結婚式の写真を提示し、ふさわしい衣服を確認する。次に、各自で結婚式に合うデザイン、遊園地に合うデザインを色、柄、素材や形の観点から考える。その後、グループで、紙マネキンに結婚式と遊園地に行く服装を、雑誌等からプリントした洋服のサンプルから選択したり自分たちでオリジナルのものを作ったりしてマネキンに着せる。最後に、各グループで作ったスタイルを発表・評価し合う。



【冠婚葬祭にふさわしい衣服の確認】



(2) 授業検討会及び小中連携を家庭科学習から考える

公開授業を踏まえ、3 視点に添って検討を行った。

① 生徒の興味関心に添い、自分事として捉えて積極的にかかわる授業であったか。

② グループ活動は、ねらいの達成に有効であったか。

③ 授業者の支援は適切であったか。

公開授業をもとにしながら、衣生活の分野での小・中の系統性や、連携できる事柄について意見交換した。

4 成果と課題

家庭科の授業は、小学校でも中学校でも指導に携わる教員が限られており、校内でも研修の場がほとんどない状況である。今回中学校での授業公開により、中学校の教師間でも小・中の教師間でも、系統性を意識して授業をする必要性を再認識できた。また、学び合いの効果を高めるグループ学習のあり方についても検討することができた。課題は、中学校での製作学習で、長さの単位の理解等、中学校の技術家庭科学習を円滑に進めるために、小学校段階で何を強化しておく必要があるかを明確にする等の連携を進めることである。